

加茂里山通信

平成23年
秋号

発行 市原商工会議所
加茂里山通信編集部
発行責任者・編集長
征矢 貴造

少年チームに大優勝旗

白鳥ファイターズ大活躍!

決勝で圧倒!

ヤッター優勝だー!

そして、帰りに飯給(徳氏の「田奴久」さんで優勝賞会を行いました。(「田奴久」さんありがとう

白鳥ファイターズ(白鳥小学校ソフトボールチーム)は去る7月2日(土)八幡サッカ―場において行われた、平成23年度(第28回)市原市少年ソフトボール連盟春季大会において悲願の優勝旗を手にしました。

大会一回戦は長年勝星のなかった国分寺ファイターズを5対4、準決勝では浜本ソフトを14対3でそれぞれ下し、迎えた決勝は昨年登録された市原エンジェルス(辰巳君)と対戦しました。

試合は、我が白鳥ファイターズの打線燃え好守・好投...で一方的なリードを奪い、15対0で圧勝しました。

選手達は一回戦から声が出ておりチームは盛り上がりつつありました。(まさか優勝とは)

選手達 保護者 監督 コーチみんな大喜び。(涙・涙...)



晴れやかな笑顔 がんばったね

チーム存続の危機

保護者の皆さん、また応援してくださった皆さんありがとうございました。

しかし、現在白鳥ファイターズは部員11人です。6年生が7人卒業してしまつた部員は4人となり、チーム編成が大きな存続の危機となつてしまつています。長年続いていくチームであり先輩方の築かれてきたチームなので解散は考えておりません。是非この記事をご覧の親御さんは「うちの子を...」と考えていただけたら幸いです。今年各小学校さんにお願ひし、部員募集のチラシをお配りさせていただきます。

部員大募集!

練習は年間通して行い(オフシーズンあり)、試合は市内春・夏・秋季大会、つどい大会、地方遠征(四街道、鴨川...)などです。また、楽しい行事もありますので入部をお待ちしております。

監督 古島豊

いよいよ平成二五年度から加茂地区の中小一貫校がスタートします。これに伴い加茂地区の白鳥・里見・富山・高滝の四つの小学校がなくなります。それぞれ独特な歴史や校風を持った学校が消えていくというのは実に残念なことです。地域の人間にとつてもそれぞれの小学校は心のよりどころとなつていきますので、言い知れない寂しさがあります。しかし子供たちは元気です。白鳥小を母体とする白鳥ファイターズは学校全児童数42人の中での11人の部員です。6年生が7人、4年生が2人、3年生が2人です。このチームが市原市の夏の大会に続いて秋の大会でも優勝しました。富山小では地域の里山の会との交流があったり、秋の運動会では縄跳び競争やこにしかない炭焼き音頭の踊りの披露などがあります。子供たちの元気さこそが地域の活性化の源です。これからの一年ちよつとの期間、里見小や高滝小を含めてそんな子供たちの活躍を紹介していきたいと思ひます。(征矢里山通信員)

縄なりの炭焼き音頭!

富山小秋季運動会

千バ君走りまわる

9月10日に富山小学校にて、秋季大運動会が開催されました。全校児童22名の小さな小学校に生歌合、小谷田、新井、吉沢の面々が大会です。

今年の運動会のテーマは「きずな」というバトンをつなげよう。プログラムも全学年の競技が連なつていきます。児童の他には老人会、一般、来賓及び町会となっています。

三つも掛け持ちです。総出の運動会も富山小学校の特色のひとつ。だれでも参加が出来るアットホームな運動会なので、場を盛り上げるのにフル出場している千バくんが走る走る。



富山っ子ソーラン お見事!

域の意地をかけたの勝負となります。

シルバークーを引いて児童達の運動会の様子を見に来ることを楽しみにしている方々もいます。小中一貫校に統合されてしまつた、もうこんな元気な富山小の子供たちの姿を見たり声を聞いたりすることができなくなつてしまつたのは本当に残念です。(征矢里山通信員)

(征矢里山通信員)

過疎化は加速する 2

前号でこの加茂地区の過疎化の問題を取り上げましたが、その後いろいろな人の意見も聞き、買い物弱者に悩む高齢者や若年層の過疎化の委員会の会議も重ね、いくつかの対策がとられてきました。

老人が孤立する

一つは過疎化と高齢化により独り住みの老人が増えていることです。そして行動範囲が狭まり、買い物や病院通いが困難になると同時に、その人間が孤立していくという事です。たまたま集まって色々の機会があるとなかなか帰らないというのを聞きました。

た。人が少なくなっていくのも問題ですが、それにもなると老人が孤立していくのはさらに深刻な度合いが増すのではないかと感じています。

信発からの山里

また、新規に加茂地区に入ってきた人や一度外に出て行って帰ってきた人、この地の人にとり、この地にとけ込むのに戸惑いを感じたのは、冠婚葬祭や見舞いなどの儀礼的な付き合いや、隣組や町会としての付き合いなどの近隣との関わり方などでした。どのようにつきあうかというのかわからず苦労したといえます。元からいる人にとり、何でもないことが、後からこの地に入ってきた人にとっては面倒くさく感じるに感じられることが多々あるわけで、地域にとけ込むのに時間と経験が必要になります。

今、何も手を打たなければこのまま過疎化は加速していきます。しかし、問題点がはつきりしてくればその対策も考えることができます。

今、各地域でいろいろな里山活動が行われています。また、ボランティア的な活動も盛んになってきています。地域のお年寄りたちの活動も増えていきます。そこに参加するか、誘うか、またそういう人たちが独り住

まいの人のところをまわって声をかけるかすれば、多少は孤立化を防ぐことができると思います。

また、こちらに移り住んだ家族が、近所に面会見のい人がいて付き合いなどもいろいろアドバンスしてもらえたために、比較的スムーズにこの地に慣れたという成功事例も議論の中で話になりました。

本場の世話役として

町会の中で誰かあるいはチームで、この地に暮らしたいと考えている人や既にこの地に越して来た人、この地から離れた帰ってきた人の世話役としてあられるような体制ができれば、もう少し早くこの地にとけ込みやすいのではないかと考えます。

また、慣例的な付き合いなども町会の中でも一度検討して、簡略化できるものは簡略化し、今の時代に合ったものにしていくことも必要になってくると思います。五井、八幡、姉崎あるいは茂原や本郷津に車で一時間以内に行け、圏外道のインターがすぐ近くにできて、潮も緑も豊かなこの地に住みたいと考える人は増えていくと思います。受け入れる側が受け入れる体制を整えてあげること、過疎化の加速は緩めることができるかもしれません。

会議を重ねる中で、少し光が見えてきたような感じがします。

『マイドキュメント』の出版

転校生は二万五千人

震災と原発事故の災害は単に物理的な破壊だけではなく、家や肉親を失ったり、住み慣れた土地を奪われ、近所の人や学校の友達とのコミュニケーションを断たれたりして、精神的にも大きな打撃を与えました。九月時点で転校を余儀なくされた生徒は二万五千人を超えています。その七割が福島県に集中しています。これはもちろん原発事故による放射能漏れの影響です。心のケアも必要で七〇〇人を超えるスクールカウンセラーが派遣されています。来年度はその数を三〇〇人に増やし、避難の長期化に備えるといわれています。

編集長は七歳の女の子

避難所という非日常空間で精神的に参ってしまう大人たちが多く、注目されたのが気仙沼小学校に避難した子供たちが始めた『マイドキュメント』でした。その後新聞や雑誌やテレビなどでもこの新聞のことが取

り上げられたので、ご存知の方もいるかと思いますが、発案したのは当時七才の子でした。避難所の大人たちが元気のないことを知り、少しでも元気になってほしいと思い、四コマ漫画やニュースを書いて新聞のようにして読んでもらいたいと考えたのです。七才の女の子は編集長となり、避難所で一緒に暮らした年上の子たちと一緒に第一号を出したのは震災から一週間目の三月十八日でした。途中でその子が避難所を離れたために編集長を務め、ほぼ毎日、五十号まで発行しました。編集方針はただ一つ、暗い話は書かない。もし書いてしまったら紙をぐしゃぐしゃにして捨てるというものです。その第一号の記事で七才の編集長は「う呼びかけています。『あのこわい地』からこの新聞を作ることをきめました。みなさんは気仙沼小学校でこのなん日かすして、いろいろなことがあるとおもいますがみなさんもがんばりましょう。わたしたちもがんばります。」

すべてに感謝の言葉

五十号のすべての新聞を載せた本が出版されました。(この本には大人の余計な解説や感想などは入っていません。売り上げの一部は義援金として寄付されます)記事には炊き出しで食べたバスタイン人の作ってくれたカレーや、ラーメンやパンや焼うどん、豚汁やイカめしやシジミのみそ汁やドーナツやスリランカの人の作ってくれたカレーのことが出てきます。そのすべてに感謝の言葉が述べられています。そして黙々といるいるやってくれている自衛隊にも感謝しています。お風呂に入って気持ちよくなったこと、学校が始まりすぐにテストがあったこと、みんなでトランプゲームをしたこと、いよいよ当り前の日常生活のままだとそれぞの手でイラストや漫画も入れながら書いています。ただそこには不便な生活を嘆いたり、後悔したりの記事はまったく書かれていません。しかしそこがすべてを失った上に『プライベート』の空間を持ってない避難所という全くの非日常空間であることを考えると、その心とは大きな意味を持ちます。思いを伝えるという小さな子たちが元気に前を向いているというところが伝わるというところ、そのことは目に見えない大きな力大人たちの心を動かしたように思います。『マイドキュメント』に負けないように、思いや気持ちの伝わるような記事を書かなければと思います。(征矢里山通信員)

元気で長生き

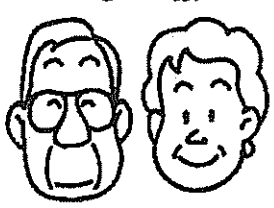
歳をとっても身の回りの事ができて、元気に生活している。そのためには食事と食べ方、毎日の暮らし方に注意が必要です。

生活習慣病の予防は究極の認知症予防になります。



認知症予防の10ヶ条

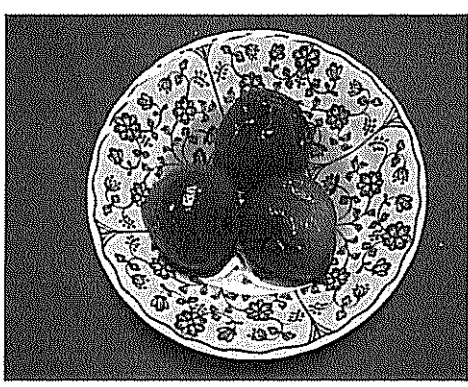
- 第1条 塩分と動物性脂肪を控えバランスの良い食事をとる(病は口から入る)
 - 第2条 適度に運動を行い足腰を丈夫に保つ
 - 第3条 深酒とタバコはやめて規則正しい生活
 - 第4条 生活習慣病(高血圧、肥満など)の早期発見・治療を行う
 - 第5条 転倒に気を付けよう 頭の打撲は認知症を招く
 - 第6条 興味と好奇心を持つようにしよう
 - 第7条 考えをまとめて表現する習慣をつける
 - 第8条 こまやかな気配りをしたよい付き合いをしよう(口から出る)
 - 第9条 いつも若々しくおしゃれ心を忘れず
 - 第10条 くちくちしないであらゆる気分を生活を送る
- いかがでしたか? 人と話をすることが脳に刺激を与えます。新しい事柄にチャレンジすることも大切です。(大曾根里山通信員)



無花果のワイン煮

材料	
いちじく	1 Kg
砂糖	200g
ザラメ	50g
赤ワイン	400cc

- ① いちじくは皮のままよく洗う。ヘタを落とす。
- ② 鍋にたっぷりの水を入れて茹で、あぐを取る。
- ③ お湯をきり、ワインと砂糖のしるしを加えて火で約30分煮る。
- ④ 残りの砂糖を加え、汁が半分くらいになるまで煮詰める。



市原市の特産品「無花果のワイン煮」です。名前の由来は、ひと月に熟す「熟す」(いちじく)と、一日一果つ熟す「熟す」(いちじく)になっただけです。漢字で「無花果」と書きますが、花が咲かないわけではなく、実の中に無数の白い花を咲かせます。果実のように見える部分は、花軸が肥大化したもので、切った時に粒粒のように見える花があるのがわかります。

不老長寿の果物ともいわれ水溶性の食物繊維であるペクチンを含み、腸の活動を活発にさせ、便秘に効果があります。カルシウム、鉄分、ミネラル、ビタミン等がバランスよく含まれており、カリウムには高血圧予防効果、タンパク質分解酵素を含有消化を助けます。無花果のワイン煮を使って「丸ごと無花果ゼリー」なんていかがですか? (大曾根里山通信員)

芸術祭が動き出した

去る9月7日、加茂公民館に於いて芸術祭開催に向けての懇談会が開催されました。講師は新潟県の日野市で行われている「大地の芸術祭」や、昨年瀬戸内の7つの島を舞台に開催された「瀬戸内国際芸術祭」を仕掛けた、アートディレクターの北川フラム氏。地域の活性化策として、テレビや新聞等で度々取り上げられる北川氏の仕掛ける芸術祭は、国際的に注目を集めています。

北川氏は市の番組で放送された十日町市での取り組みを例に、首都圏に近く豊かな自然とローカル色強い小湊鉄道が走る加茂地区を中心とした、南市原での芸術祭の大きな可能性を参加者に伝えてくれました。

十日町市は2000年から3年ごとに芸術祭が開催されています。2年前は2カ月足らずの期間中に交通がとんでもなく不便な地にもかかわらず、30万人の来訪者がありました。芸術家と地元住民の交流も含めて開催に充実しています。来年の開催も既に決定しているとのこと。



説明する北川フラム氏

渡り船で島を回るような実態にもかかわらず、1ヶ月半の期間中に台風がなければ100万を越えたといわれている(公式発表96万人)ことなども聞きました。温暖で雪のない南市原なら芸術祭の成功を確信しているとのことでした。北川氏は芸術祭の目的を『多くの来訪者を集めることではなくその地域に住む住民が生き生きと暮らすことが大事であり、そのお手伝いのために多くの芸術家を地域に送り込むことである』と表現しています。市政50周年事業とされる南市原の芸術祭にこれからの注目です。

(大曾根下里山通信員)

アート漫遊 加茂市で開催

関東で一番遅い紅葉が楽しめるということで、例年賑わいを見せる養老溪谷周辺で、市原市による新しいイベントが始まります。

「アート漫遊 いちばら」と名付けられたアートイベントは、小湊鉄道の沿線の紅葉スポットを中心に、5組の現代アーティストと地元市民団体が協力して「遊」「食」「光」「自然」をテーマに、6つのプログラムが展開されます。詳細は以下の通り。

◆期間 11月23日(祝)から12月4日(日)

◆内容

「里山駅」EAT&ART T.AROX(動物園倶楽部)食をテーマに里山駅が地域のプラットフォームになるような仕組みづくりを行う。

「月読駅」木村孝人×安田美奈

市民の森を舞台に星の形をした木漏れ日を作り出し、星を捕まえる遊びを提供。好評のイルミネーションと連携した光のアートを楽しめます。

「大久保駅」長谷川仁×岡本一心

「もみじの宝もの」と名付けた光のアート。落葉がLED照明によって輝く宝石に変身します。

「養老溪谷駅」長谷川仁×白鳥小学校

白鳥小の子供たちと作った自分たちの列車を走らせます。

「養老溪谷駅前」KOBAYASHI×里山通信

張りぼての木が瞬時に紅葉に染まります。

パフォーミングは毎日午後2時からの予定

「養老溪谷駅周辺」いわのあじだ×里山通信

神出鬼没の舞踏家集団が紅葉の世界で野外公演をします。

平成25年に予定されている市制50周年事業の芸術祭へ向けてのスタートのイベントになります。読者の皆さんも是非足を運んでみてください。

■周辺の秋のイベント情報

・クワコボリヨウタ 11月5日～11月4日

・あそびの谷

・市民の森イルミネーション 11月27日～12月25日 市民の森

11月27日はお祭り点灯式が行われます。

・ファミリーハイキング 11月27日

・市原マルシェ 11月23日 朝生原小学校跡地

・牛久光とアートのフェスティバル 12月3日

・牛久原商店

(大曾根下里山通信員)

加茂市を歩く

南大会議所加茂支部では九月に入り買物弱者支援検討会を開催しました。市の職員と交え、地域の商店主や議員さんなどに集まってもらい意見交換を行いました。

ある飲食店に関する話題がありました。田植や稲刈りの時期になると田んぼや畑まで出前をしてくれる食堂の話でした。田植や稲刈りのお昼、「まいど」。出前です。田んぼに響く。これこそ地域に根付いた地元の商店にしかできない究極のサービスです。また、加茂地区の商店は自宅に宅配することが多いそうです。月給にある高山商店さんや溪谷の角屋商店さんも、高齢で店まで来られないお客さんのために宅配を行なっています。定期的に利用しているほとんどの方が一人暮らしの高齢者で、日用品や食料品等の商品を配達しています。昔からお互いに馴染みなので「元氣かい」「寒くなってきたから体には気をつけてね」などの会話が自然と生まれ安心感にも繋がっています。

地域の住民と商店が良い関係を築き、人と人の絆を大切にしていけば、必ず住みやすい地域になると思います。商工会議所もその手助けができるように頑張ります。

(霜崎里山通信員)

第五回町会紹介

万田野町会

3つのパワースポット探訪

万田野は山に囲まれた町です。人々の多くは炭焼きや竹細工、木材運搬、昭和40年代前半からは山砂の採取関連の仕事など、山とともに生きてきました。(ちなみに、万田野は日本有数の良質な山砂の産地、ディズニールンドや熱海ビーチの埋立てにも利用されました。)現在は砂採取跡地などに新たな産業も興され、多くの方がそこで働いています。

また、万田野は加茂地区の最西端にあり、北西側は木更津市、南西側は君津市に接し、山の尾根を走る2本の林道がおおむね行政界となっています。今回この林道沿線にある3つのパワースポットを紹介いたします。

スポットを紹介いたします。

1点目は、林道万田野線の天津日神社です。地元では「おてんとさま」と呼び崇めています。現在の建物は元号改変を機に平成2年に地域の力で再建したものです。126段の石段を上ると神聖な感じがします。御神木の向こうには房総の山並みが広がります。また、真偽のほどは分かりませんが、ネット情報では恋愛成就の神社の一つに紹介されています。

2点目は、天津日神社から少し南にある「三角点」です。ここは全国で約千点、県内では26点ある国土地理院所管の1等三角点の一つです。展望施設が無く、入り口も未整備なのが残念ですが、標高270.93mで、県内では4番目、中央部以北では最高峰で、木更津港はもろろのこと遠くスカイツリーなど、その眺望は息を飲みます。

3点目は、林道音信山線の一角にある道祖神です。地元では「どうろくじんさま」と呼んでおり、祠の中には子孫繁栄を祈念した大小様々な石が祀られています。

以上、林道音信山線、万田野線の名所々をご紹介します。この林道はかつてワンデーマーチのコースとなっており、沢山のハイカーが訪れましたが、いつの頃からかコースから外れてしましました。今後は、この宝を地域の力で磨き上げ、誰もが訪れたくなるような魅力づくりにつなげていければいいなと夢想しております。

(後田里山通信員)



階段は126段 社が小さく見えます

秋のギャラリー情報

◇カントリードール作品展
10月29日(土)～30日(日)

◇三人展「陶・鉄・布」
11月23日(水祝)～11月28日(月)

◇藤本幸一作品展
12月3日(土)～12月18日(日)



ホンカ房総 太陽工業株式会社
市原市馬立414-1 tel. 95-5641

HONKA

人と環境が一体となって大切な未来へ

自然環境と人間との調和を目指して



杉田建材株式会社

本社 市原市万田野 26 TEL 0436(96)1311
市原支店 市原市惣社1-1-22 TEL 0436(24)0511
南総支店 市原市牛久450-1 TEL 0436(50)0111
URL <http://www.sugita-group.com/>

加茂米づくりが便利 少子高齢化に思いつ

日本における少子高齢化が指摘されて久しく、その比率は高くなる一方で、現実的な問題が多々見られるようになっていきました。市内においても加茂地区をはじめとした農村部では若しきものがあがり、状況も加速する一方です。25年度には小中一貫校として加茂地区では学校が二校になります。子供達にとって母校としての誇りを持てるような学校を大人達には提供する義務があると思います。大人たちの都合や勝手では子供達の未来を潰すわけにはいきません。せひ多くの皆さんに關心を持っていただき見守っていただきたいと思います。

先日近くに住む97歳になる方がおてくなりになりました。体調をくずされて一月くらいとお聞きしました。その方は釣りが趣味で私も昔よく接してあり、高滝湖では釣り仲間もあつた。他県より来られる釣り人達にも知らぬ人はいないという存在でありました。いつも決まった釣り座があり、その方が来ない日であっても決して他の人はそこに入らないという暗黙の了解の様な決まりになっていました。釣り人達にとつて97歳にして釣りが出来るという事が憧れであり羨ましく思うところでした。一方近くに出来た老人ホームはすでに満室に近いとのこと。老いて元気で居る事の大事を改めて思うところです。

加茂地区で一番遅いであろう君の稲刈りも終わり

加茂地区で一番遅いであろう君の稲刈りも終わり、実り豊かな秋の季節となつていこうとしますが・・・
A「いやーめえーったよ。稲刈りやつてと思つたら、イノシシやられたつたよー」
B「またかええ。どんぐれーやられたかしてねけんが、へえった田んぼん米は売りもんにやーならねつて。米がにおつちつて」
A「こめーはよー、もろこしといひはハクビシンにやられちまつて、こんどはイノシシだつたーそめえはサルだつた。ゆるら『その国』があるつたつて、加茂は動物園になつちまつたな」
B「ゆんべもよー、たまたまかみジナだがかんねけんが車であつかりそうになつたつた」
A「まー、おらほうも、うわばみちゅーばけもんだかな」

加茂里心通信

魚屋の戯言

カタクチイワシ

カタクチイワシの美味い時期が近づいてきました。こう言つてもカタクチイワシ？なんだそれと思われれる諸君の方は多いと思います。実はセグロの正式名称がこれなんです。厳密に言つてセグロはカタクチイワシの一種であり、他にはゴマメ・田作り・シロイワシ(後述)などと呼ばれています。カタクチイワシは安価で美味しいので様々な利用方法があつて、目差しや煮干し・あるいはタタキイワシやしらすが干し・アンチョビなど多くの加工品があります。

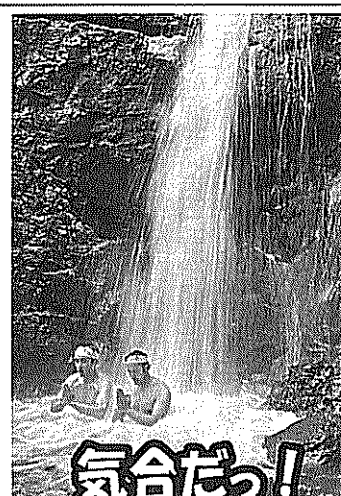
加茂地区では冬の魚として、塩と酢が梅酢で煮て生で召し上がる方が多くいらつしやるようです。特に正月前にはおせち料理に是非欲しいとおつしやるて求められるお客様が大量にいらつしやるようです。お客様はなるべくぎりぎり欲しいとおつしやるもの、これが実に難しく、暮れの何日まで入荷があるか毎年違つて予測しにくい魚の振舞なのが頭痛のタネなんです。もう15年も前の話です。暮れも押し詰まつた28日に突如として市場に大量に入荷があり、いつもお世話になつて居る問屋さんには40箱のセグロが山積みになつていました。それ全部下さいと言つて問屋さんの社長を驚かせたこともあり。その時は他の魚屋さんにも同様な話がいけなかつたと言つて25箱もらつて来たセグロが、午前中に全て売り切れてしまいました。

これほど加茂地区ではなじみ深い魚なのに、実は生食用のセグロには2種類あることをご存知の方は多くありません。ひとつはもちろん本物のセグロイワシ、もうひとつはシロイワシと呼ばれる魚です。当店では本物のセグロを店に並べることはめつたになく、殆どがシロイワシを売つています。理由はシロイワシの方が美味いからというところに尽きます。この2種類の非常によく似ていて、おぼけななで見て魚屋でもうかつと区別されていいます。セグロよりもシロのほうりが身が締まつていて脂肪分も多く、値段も高い場合が殆どで、産地は愛知のものがいいようです。カタクチイワシの名前の由来は、目が頭部の前方に寄つていて口の片側に寄つていからたそうです。天ぷらやつみれなどでも大変美味しい魚ですが加茂地区では圧倒的に生で召し上がる方が多いようなので、時々「これ、生で食べて大丈夫？」と聞かれることがあります。もちろん鮮度のいいものしか売れませんし、

出羽三山で修行する

セグロを生食する文化がこれだけ根付いてる以上、あたることはめつたないと思つています。それでもセグロに限らず魚を生で食べるにはどうしてもある程度のリスクが伴うので絶対に大丈夫とは言えません。生で召し上がる方が殆どなのはセグロの美味しさを知つて居る加茂地区の方ならではだと思います。作つたセグロを冷たい真水で何回もよく洗つてから多めの塩を振り更に酢で煮て、冬の味覚を楽しんで下さい。

(鈴木里山通信員)



先月研修で出羽三山へ行つたので今回はそのことについてお話ししたいと思います。
出羽三山とは山形県山形市に広がる月山・羽黒山・湯殿山の総称でそれぞれの山頂に神社があり、これらを総称して出羽三山神社といひます。市原市は県内でも特に出羽三山信仰が盛んな地域で、行人(※三山参りを成し遂げる人)になつて俗人とは別な一段高い地位に進むという信仰がありました。出羽三山に参ることを古くは奥州参りとも称し、特に修業を継ぐ長男の場合

け水は冷たく身が引き締まる思いでした。登拝も日程の関係上一日で三山を巡つたものですが、日頃の運動不足も重なり湯殿山に着く頃には足がガクガクになっていました。しかし心は大変清々しい気持ちになり、出羽三山を登拝する意味を知り納得しました。出羽三山を巡ることは、この世を意味する羽黒山で現世の幸せを祈り、あの世を意味する月山へ赴き精神的に死を迎え、そして湯殿山に下ることで再びこの世に新たに生まれ変わることを願うと考へていました。行人が登拝の際に白装束なのはそのためです。出羽三山では毎年このような研修を行つていひますので、皆さんも改めて自分に向き合つてみてはいかがでしょう。

(平田里山通信員)

編集後記

暑い夏から一気に秋に移り、山もほんの少し色づき始めました。十月一日には小湊鉄道沿線での菜の花の種まきが行われました。加茂地区の多くの団体や小学生、中学生が参加しました。桜と菜の花が満開となり、空は晴れ渡り、穏やかな春爛漫となる頃が本当に楽しみです。
そうした自然の移りとは別に、この加茂地区では平成三五年になるという大きなことが起ります。延び延びとなつて居る国道も予定では平成四年度内には東金まで開通するといひます。そうすると一五年には開通するといひます。もちろん田舎のインフラから乗れることになり。また、この年の四月から小中一貫校が始まり、今ある四つの小学校はなくなつてしまひます。そして加茂地区を中心とした南市原での芸術祭が行われます。今開催している「水と彫刻の丘」の美術館も全く新しい姿を見せていひます。それらはすべて進行中なので、これから一年や二年はこれまでにないほど様々な動きがあると考えられます。芸術祭に関しては全国規模の注目が集まるでしょう。この地に住みたいと希望する人も増えるでしょう。
私たちの対応が問われることになり。ます。
(佐々木里山通信員)

次回1月25日発行予定です

房総・養老溪谷の地酒お土産は
養老溪谷駅前
角屋商店
養老溪谷観光協会窓口
市原市朝生原181
TEL 0436-96-1108
FAX 0436-96-0052

愛車のある幸せを暮らし
応援します！
安全・安心
有限会社 全日本ロータスクラブ加盟店
小茶自動車
市原市石神227
TEL 0436-96-0482
FAX 0436-96-1293

皆様と共に歩む観光
いよいよワカサギのシーズンです
10月8日に解禁になりました
高滝湖観光企業組合
TEL 0436-98-1277